

宇部幸楽苑広報紙

幸 楽 苑 だ よ り

11月号

発行元：介護老人保健施設 宇部幸楽苑
発行日：令和5年11月1日
TEL 0836-51-3113 FAX 0836-51-5522

明るく優しく

敬意をもつて

宇部幸楽苑看護師長 森田 美子



昨年4月に、看護師長として参りました森田と申します。私は看護学校を卒業後43年間急性期病院で勤務をさせて頂いてきました。前病院退職後もどこかで人様のお役に立ちたいと考えていた時期に先輩から「老人保健施設（以後老健）で働いてみないか」とお声をかけていただきました。しかし、恥ずかしながら老健とはどんなところなのか知識がなく、ネット検索したところ『介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、理学療法士・作業療法士によるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設』と記載されていました。

私は、前病院で、術後患者のリハビリに付き添うことが好きで、よく患者さんからも「藤里（旧姓）さんは、人をおだてることがうまいな、おだてられたら、豚も木に登るからな」と言われていました。これからも自立支援が出来たらと思いい入職させていただきました。

入職して最初はいろいろなことが前病院と違い戸惑いはありましたが、感動したことは、職員同士仲が良く新参者の居場所を作ってくれ居心地のいいところだということです。また、今年1月からは苑長として前川剛志医師が着任して来られました。先生は恐れ多い存在ですが、経験豊富な先生と一緒に仕事ができることは私にとってありがたく、運がいいと感じています。このご縁を大切に、前川苑長を中心に幸楽苑が組織としてますます繁栄し人気の老健になるように苑を盛り上げて行きたいです。そのためには、今一度これからの老健の在り方を検討し、利用者様がその人らしく生活できるように全力でサポートし、ご家族様にも満足していただける関わりができたかと考えています。

《基本理念》

私たちはサービス提供者として、常に、地域社会における入所者様・ご家族並びに利用者の立場に立って考え、最善の行動を致します。

《運営方針》

- 1.常に笑顔で誠意のある対応を心掛けます。
- 2.説明と同意の実践に努め、納得いただける施設サービスを実施致します。
- 3.人権を尊重し、入所者様・ご家族と共に職員が一丸となって自立生活の支援を致します。
- 4.個人の尊厳とプライバシーの保護に努めます。
- 5.疾病や障害の予防と適切な施設サービスを提供致します。
- 6.地域社会と連携して質の高い施設となるよう努力し、職員は日々研鑽に努めます。

「研修参加報告」



先々月、二十一日に広島で開催された、第六回 中国地区老人保健施設大会に七名で参加して参りました。この度の研修内容は『介護の科学化と共生に向けて』という命題のもと開催されました。

私が個人的に興味を持った研究は横浜国立大学准教授の『仮想ライトタッチに基づく転倒予防・リスク評価技術：SCABLE』という発表でした。

どういった研究か簡単に説明致しますと、目隠しをされた状態の被検者が片脚立位を取り、姿勢の動揺が続いているのだが一本の指先に紙が触れた程度の軽い電気刺激を与えた間は動揺が解消し、平衡感覚が保たれるという内容でした。

大変、興味深く貴重な研究発表でしたので私は思い切って、質疑応答の機会ですっかりと質問し、納得のいく回答が戴け、知識として吸収することが出来ました。この研修を経て、今後の入所者様の運動機能の評価方法を確立し、より安全な苑での生活を守っていただけるよう職員一同、努めて参りたいと思います。

理学療法士 永久 晃

「長寿のお祝い」

この度、当苑では十二名の方が、節目の年齢を迎えられました。最高齢は百五歳を迎えられた方もいらっしゃると思います。とてもお元気で、職員一同元気をもらっております。これからも、健やかに過ごしていただける事を職員一同祈っております。

当苑では、長期の入所が必要な方や超高齢の方でも、安心して健やかに生活していただけるようケアプランを検討し、それに基づいた食事管理、健康管理、リハビリ、介護支援など、スタッフが一丸となって取り組んでいます。



「徒然なるまきに……」

今年もあと二ヶ月。一年はあっという間ですね。

私は今春から看護師資格を取得する為、通信制の学校に通っていますが、まさにあつという間に時が過ぎております。授業レポート、テスト、実習と時間がいくらあっても足りません。一日二十四時間、全人平等ですが、今ほど時間の大切さを感じる日々はありません。

さて当苑における利用者様の日々は、未だコロナの影響で面会制限などがあり、ご不便を掛けております。我々は施設で過ごされる利用者様の「大切な時間」を共有しています。業務に追われる中でも、様々な場面でちよつとした声かけ、ちよつとした会話やスキンシップを心掛け、それが日々の刺激になり「良い時間」を過ごして頂けるよう関わっていききたいと思っております。

〔看護師 松田高一郎〕